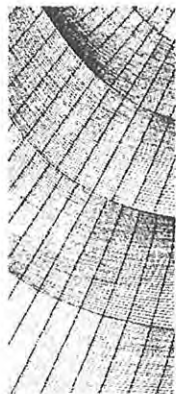


最高機関として熊本県民健康会議というものをもっています。
このような推進体制の中で、先程申しました三本の柱の健康づくり推進運動を始めておるわけです。



大きい主婦の役割

西郷 私は熊本県というところは、非常に緑が多くて、水がきれいで、田畑も多いし、環境からいえば、とてもすばらしい所だと思います。

けれども、かつては結核が非常に多くて、り病率も死亡率も常に全国の上位にあつたわけなんです。そして今度は、成人病が非常に多くなったとか、乳幼児の死亡率が高いとか、子宮ガンの死亡が多いとかいうように、数字にでた時は、何か不健康な部分が多いように思われま

す。
どうして、この美しい熊本で、行政の方でも努力しておられるのに何かしらというふうにご迷惑に思うわけでもないです。

成人病というのは、パッと発病するのではなく、本当に長い間の食習慣であったり、いろいろなものからでくる病気で

すから、それはやはり家庭を預っている婦人という者が、少しそこそこ注意識していただけたらと思います。

やはり「生涯を通じる健康づくり」ということが一番基礎になると思います。若い人たちがこれからの可能性をたくさん含んでいらっしゃるわけですから、その方たちの心身両面の健康ということも、一番問題になるのではないのでしょうか。

西村 私も家庭の主婦として、家庭の健康について関心をもち、家族の健康管理をやるかということにかかっていると

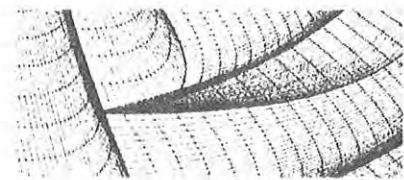
思います。
しっかり勉強して強い信念をもち、それをいかに実践していくかということ

です。
例えば、白砂糖は四大家族で一ヶ月に一キロとわかっていても、やはりついつ

い多く使ってしまうわけですね。頭の中ではわかっていても、それを自分の行動なり、家族全体の行動に移して、それも一日だけでなく生涯を通じて続けることは、かなりの努力と熱意がいると思います。

それから、我が家はこんなにして健康管理をやっていますよとか、こんなにすれば丈夫になりますよとか、隣近所に広まり、さらに地域社会に広まっていけばと思います。これもなかなか困難ですね。いかに輪を広げていくかということも私たちの課題でしょう。

西郷 今のお話のように、各家庭で思っていることも、社会全体の意識として広がらないということは、今の生活状態が影響していると思います。と申しますのは、今は核家族化しておりますし、食生活にしましてもスーパーやデパートへ行つて自分の思いにまかせて、自分の必要な物を買うことができます。



昔みたいに八百屋や魚屋の主人が、「これは新しくいいですよ」「これはこう料理するとおいしいですよ」と言うこともないわけですね。
もう一つは、今はよくなったとはいえそうですが、井戸端会議というものをあまりやらなくなりました。昔は隣近所と親しい付き合いがあつて、主婦たちはよく井戸端会議をして、どうやったらおいしいものができたとか、こうやったらいいとかがよく伝わったんですけれど、今はそういう話し合いをする場所というのが少ないのですから、口こみで伝わっていくということは、だいぶ難しくなつたように思います。
やはり地域ぐるみの健康づくりということになったら、そうした面も必要ではないかと思ひます。

“大地の香り”こそ原点では

伊藤 全体的にいいですよ、熱があるから熱さましを飲ませて熱を下げてやれという対症療法的なものに追われて、抜本的なことが、国として、県としてやるというようなことが実際問題としてできないんじゃないかと思ひますね。健康とか体力づくりといえば、昔から体操々々といわれて、明治以来、学校体育、保健体育で取り上げてきたと思ひますが成功したとはどうも思ひません。

その一つのいい例が、成人病なんか熊本の本すばらしい環境の中でどうしてだろうということですが、自然がこれだけなかったら、本当はまだ大変なんです。ですが、自然の中から人間の活力というものを吸収していくということ、幼稚園から大学まで全然教えていないんです。

学校の勉強というのは、受験勉強に追われてしまつて、子供が帰ってきたら「あなたは今日は一回は裸足になったの」「裸になって運動したの」なんて聞くお母さんなんていません。「今日はお勉強がんばってましたの」としかね。

大地の香りの中で、自然の中で呼吸し

てきて思いきり体を動かして帰ってくるということが、子供の一日の生活の中では健康づくりでは基本なんですけれどもね。

健康に対する意識、これも自分で守らなければいけないという教育を、小さい時からやらないとだめだと思ひます。
清田 家庭を預っている主婦の方が努力しなくてほというご意見は大変ありがたいですね。

それから熊本はこんないい環境なのに、どうして成人病が多いんだということですが残念ながら数字的にみますと、確かに上位にあるものもあるわけですが、これは各県の年齢階層が違いますし、訂正死亡率でみますと必ずしも熊本が悪いということでもないんです。

西郷 若い女性の貧血とか中年婦人の肥満というのは、全国的にあまりよくないわけですね。

西村 私の町ではハウス園芸が盛んなんです。町でも健康な町づくりということで、特にハウス内作業従事者の検診を実施しておりますが、貧血が一番多いんですね。それも毎回同じ人なんです。話を

聞いてみると栄養的なたよりがある人もいるし、自分のところはナスをついているのに、何で店の野菜を買って食べなくてはいけないのかとかね。それから男の人と一緒に仕事をして家に帰ると、男の人は一杯飲んでチョコチョコと食事をすませる。すると女の人の食事メニューもスタントになるわけです。



伊藤 食生活が非常に影響していると思ひますけれど、要するに最も手をかけてやるべき農家の方が、実は案外、インスタントで済ませているんです。自分たちで自分たちの体に合ったものを工夫して毎日の食膳にのせておくということも少なくなくなったのではないのでしょうか。

それから食品添加物が今、三百三十種類位ありますね。農薬が二十五種類位だつたと思ひます。それは許可になってい

いとあります。
清田 食品工業というのは発展した半面、全然問題がなかったわけではございません。

県としても、健康づくりの中でいわゆる生活環境安全対策ということで、食品安全対策については監視員が常時、監視を行つております。

生活環境安全対策としては、食品の安全対策の他に性質の安全対策、それから家庭用品、類似医薬品といった方面の監視もやっております。また最近はし尿浄化槽が非常に普及しまして、し尿の処理面からはいいわけですが、流される段階で十分浄化されないで流出する可能性があるので、ですからそういう方面の指導監視もやっております。

伊藤 やはり大衆の意識というのはいですね。例えばタクアンにしても色が美しくないと売れない。だから着色料が相当使われているわけです。ただ業者の方に使うなどといっても片手落で、大衆の方に使う意識の啓もうというのは非常に大事ではないでしょうか。食物に対する、栄養に対する考え方というのはとても浅薄だと思ひます。そこらあたりは学校教育で徹底的にやっておかないとい